

令和 3（2021）年度ブリの管理基準値等に関する提案

国立研究開発法人水産研究・教育機構並びに共同実施機関は、令和 3（2021）年度ブリの管理基準値等に関する研究機関会議において、令和 4 年度以降の資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

適用する管理規則

「令和 3（2021）年度漁獲管理規則および ABC 算定のための基本指針（FRA-SA2021-ABCWG02-01）」で示された 1 系資源の管理規則を適用する。

管理基準値案

- ・ 目標管理基準値は、SBmsy で 22.2 万トン
- ・ 限界管理基準値は、SB0.6msy で 6.9 万トン
- ・ 禁漁水準は、SB0.1msy で 0.9 万トン
- ・ なお、最新年（2020 年）の本系群の親魚量は 14.4 万トンである。

調整係数 β

- ・ β が 0.9 以下であれば、10 年後の親魚量は目標管理基準値案を 50%以上の確率で上回ると推定された。

その他

- ・ 再生産関係のパラメータ推定に使用したデータは、令和 3（2021）年度の本系群の資源評価で推定された 1994～2020 年の加入量および親魚量である。
- ・ 再生産関係式には自己相関を考慮しないリッカー（RI）型関係式を適用した。パラメータ推定には最小二乗法を用いた。
- ・ 簡易 MSE（Management Strategy Evaluation、管理戦略評価）によって、真の再生産関係がホッカー・スティック（HS）型もしくはベバートン・ホルト（BH）型の資源において、正しく HS 型もしくは BH 型を想定して管理した場合と、誤って RI 型の想定により管理した場合の将来予測を実施したところ、真の再生産関係が HS 型もしくは BH 型のときに誤って RI 型と想定した管理を行っても、短期的にも、中長期的にも漁獲量の損失が小さく、親魚量や資源量の減少リスクは殆どなかった。
- ・ 目標管理基準値案での親魚量（SBmsy）で期待される漁獲量（MSY）は 13.0 万トンである。
- ・ 本提案は調整係数 β を 1 から 0 の間で 0.1 刻みに検討した将来予測結果に基づく。
- ・ 親魚量が 10 年後に目標管理基準値案を上回る確率が 50%となる β は 0.997 である。